

# もっと、 こども まんなか

education column

いま、学校教育を取り巻く環境は、大きく変わってきています。こどもたちの未来のため、教育 DX の推進や不登校児童生徒への支援、部活動の地域移行、官民一体型学校など、武雄のこれからの教育について、一緒に考えてみませんか？

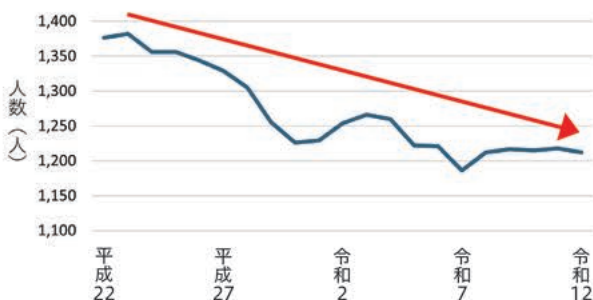


## VOL.09 学校部活動の「今」と「これから」を考える ～こどもたちの健やかな成長と学びのために～

### 部活動の「今」を考える

仲間と共に汗を流し、勝利を喜んだり、試合に負け悔し涙を流したり…。部活動に励んだ学生時代を、懐かしく振り返る方も多いのではないのでしょうか。現在も、多くの中学校では、たくさんの生徒が部活動に参加し、日々、練習に取り組んでいます。しかしながら、学校を取り巻く環境も変化し、部活動の在り方は転換を求められています。武雄市も例外ではありません。図から見て取れるように中学校の生徒数は減少傾向にあります。部員数が少ない状態では、学校単独で大会に出場できなかったり、練習が十分にできなかったり、といった問題が生じます。※表参照  
臨時的な対策として、複数校の部員が拠点校に集まり、練習や試合をする「拠点校方式」を取り入れている学校（部）もあります。

図：武雄市立中学校生徒数（令和7年度以降は予測値）



表：武雄市内中学校の部活動数  
（令和6年度中学1・2年生のみ、県立中含む）

部活動の種類 （スポーツ13、文化4）	17
部活動数	62
団体での活動に支障が生じている数	19

### 部活動の「これから」を考える

このまま部活動の縮小が進むと、こどもたちは希望するスポーツや文化活動を選びにくく、部活動がこれまで担ってきた、こどもたちの自主性や協調性を育む機会まで縮小してしまうかもしれません。このような現状を打破するために、スポーツ庁・文化庁は、まず休日（土日祝日）について部活動の地域移行を本格化し、こどもたちの活動の場を確保するよう求めています。  
武雄市が実施した部活動アンケート（市内の小5～中2やその保護者を対象）では、「部員が少ない場合、他校と合同で大会に出場したり、練習したりしたい」という声が多くあった一方で、「わからない」という回答も少なくありません。社会全体でこれからの部活動の在り方について、考えていく必要があります。

#### 【第1回アンケート結果】（令和5年度実施）



#### 【部活動の地域移行について考えられる課題】

- ・指導者の確保
- ・指導者への報酬など、運営予算の確保
- ・けがや事故への対応
- ・活動場所の確保
- ・移動手段

<https://www.city.takeo.lg.jp/kyouiku-blog/uploads/20240411bukatsugaiyo.pdf>

武雄市でも、中学校における部活動検討委員会を設置し、今後の方針を検討しています。スポーツや文化芸術活動を希望するこどもたちの活動の場を確保するために、保護者・地域・学校がしっかりと連携して、これらの課題を解決していきたいと考えています。皆さまのご理解とご協力をお願いします。



武雄市教育委員会 指導主事  
山口 高司